

診察券、地域で共通に 京都市など4市町

1枚の診察券で複数の医療機関を受診できる「地域共通診察券サービス」が、国立病院機構京都医療センター(京都市伏見区)を中心に京都、宇治、城陽、久御山の4市町で始まる。患者の受診、投薬歴を蓄積して重複診療をなくすとともに、域内の診療所や病院を一つの医療機関に見立てて患者の「たらい回し」を防ぐ。全国的にも珍しい試みという。

NPO法人「日本サステナブル・コミュニティ・センター」(SCCJ、上京区)が総務省の委託で実証実験として実施。通信や医療情報管理関連企業が技術提供する。

非接触型ICカードの共通診察券には最大30医療機関を登録可。診察券を1枚に集約でき、過去の受診や処方薬情報がホストコンピューターに蓄積される。同じ検査の重複実施や同時服用が危険な薬の処方も防げる。

SCCJによると、1989年に府内に228カ所病院があったが2008年には177カ所に減少。診察券の共通化で、磁気共鳴画像装置(MRI)など高度機器や手術室の空きなどを域内で一元管理、地域医療の質を高める狙いもある。

現在、4市町の105医療機関と調剤薬局が参加を表明。初回分の診察券5万枚は今月下旬から無料で発行する。利用開始は2月以降の見込み。SCCJ顧問の北岡有喜・京都医療センター医療情報部長は「地域医療が抱える課題の解決につながるモデルとして、成果を全国に提示したい」としている。



1枚で複数の医療機関を受診できる「地域共通診察券」(写真手前)。病院の端末にかざすと、病院固有の受付番号が表示される

【2011年01月22日 10時10分】

Copyright (c) 1996-2010 The Kyoto Shimbun Co.,Ltd. All rights reserved.

各ページの記事・写真は転用を禁じます。著作権は京都新聞社ならびに一部共同通信社に帰属します

[ネットワーク上の著作権について 新聞・通信社が発信する情報をご利用の皆様へ](#)(日本新聞協会)

[電子メディアおよび関連事業における個人情報の取り扱いについて](#)

記事に対するご意見、ご感想はkpdesk@mb.kyoto-np.co.jp